

論文要旨

学位論文題目

Dynamic Hamming Distance によるキャリアの類型化
—女性の職業キャリアの記述と計量分析への応用—

氏名

黒川すみれ

1980年代以降に女性の労働力参加が拡大した背景には、雇用制度・雇用慣行の変容や産業構造の変化、就業支援・両立支援制度の整備など、さまざまな構造的・制度的背景が存在する。1990年代初期のバブル崩壊による不況や、人口構造の変化によって将来的な労働力不足が見込まれたことで、優秀な女性を基幹労働力として活用しようと企業の雇用管理制度が見直され、今日の総合職女性に繋がるような正社員としての働き方が開かれた。一方では、就職氷河期に非正規雇用としてキャリアをスタートさせる若者が増加し、サービス産業を中心とした第三次産業が拡大したことで、パートタイム就労などの多様な就業形態が広がった。家庭と仕事の両立を支援する社会制度も整備され、働く女性が増えると同時に、非婚化・晩婚化といったトレンドのなかで、今日の女性の働き方は多様化した。

社会学においても、女性の就業をテーマにした研究が数多く展開された。女性のキャリアに関する研究は大きく3つに分類される。第一に、集計値で女性の就業状況を出生コーホート別に記述し、キャリアの時代的推移をみた研究。第二に、女性の就業継続・中断や転職、再就職などの職業移動の規定要因を探求する研究。第三に、マイクロデータを用いて個人の職業キャリアを記述・類型化し、キャリアと諸変数の関連を検討する研究である。第一と第二の研究では多くの先行研究が蓄積されてきた一方で、第三の研究では、膨大な情報量を含む職歴データを有効に活用できる分析手法が限られていたという技術的制約もあり、先行研究の数は少ない。キャリアの類型化を試みた研究のほとんどは、任意の時点の就業状態を繋ぎ合わせ、疑似的にキャリアを再現する手法をとっている。しかし、ライフイベントや家族要因によって働き方が流動的となる女性の場合、ある一時点の就業状態が個人のキャリア全体から見た時に、偶然に例外的な就業状態である可能性が低くないにもかかわらず、その就業状態をもって個人のキャリアを代表してしまう危険性がある。リスクを回避するには職歴データ全体を使って個人のキャリアを記述する必要があり、その方法として、系列データの分析手法である Dynamic Hamming Distance (以下、DHD と表記) を使って女性のキャリアの記述・類型化を試みる。本稿の目的は、DHD が従来のキャリア

研究に残されていた問題を解決しつつ、女性の就業パターンを記述することが可能であることを示すこと、そして、DHDによって記述・類型化されたキャリアが、女性のキャリアパターン変数として計量分析においても有効に活用できることを示すことである。

DHDは系列（本稿では職歴）の類型を抽出するための方法であり、系列間の類似度を示す距離を算出することによって、系列の類型化を行う。本稿では労働政策研究・研修機構が実施した「職業キャリアと働き方に関するアンケート」データを使用し、調査時点で35歳～44歳（1968年～1978年生まれ）の有職女性を対象にして、DHDによる女性のキャリアの類型化を行った。その結果、壮年期有職女性の8つのキャリアパターンを記述することに成功した。

DHDによるキャリアの類型化には次のような特徴がある。第一に、キャリアに占める職業の構成比が類似しているというだけでなく、いつ就業状態の転換を経験したのかという状態発生タイミングも考慮していること。第二に、DHDはデータ内の情報からキャリアパターンを生成しているため、類型化において分析者の基準が入ることはなく、データ内の情報のみを使ったシステムティックな手順をとっていること。第三に、キャリアの類型化に本人の職歴情報をすべて使用していることから、女性のキャリア特有の偶発性に左右されることのないキャリアの記述が可能となっていることである。

DHDによって類型化された女性のキャリアを変数化し、説明変数として用いることで、これまでの働き方が現在の意識に及ぼす影響を検証することも可能となった。生活満足度を被説明変数とした分析では、過去の非正規転換経験や、事務職・営業職・販売職などの就業経験が現在の生活満足度を低下させる効果をもつことを明らかにした。階層帰属意識の分析では、ホワイトカラーの正規雇用からブルーカラーの非正規雇用への転換経験が現在の階層帰属意識を低めること、就業継続型と再就職型では、職種や従業上の地位の転換経験の効果の表れ方が異なることを明らかにした。

DHDは職歴データ全体を利用できる手法であるために、一時点の特異な働き方に左右されずに、これまでの主な働き方を反映させるキャリアの記述が可能になった。これは、特定時点の就業状態を繋げて疑似的にキャリアを記述するという従来の方法では回避しきれていなかった問題を解決するものである。加えて、本稿では従業上の地位と職種の2つからキャリアを記述したことで、職種間の移動と従業上の地位間の移動が複雑に組み合わさる様子を可視化し、可変性・流動性に富んだ女性のキャリアを効果的にパターン化した。女性のキャリアの多様性や特徴を損なわずに、かつ解釈可能な類型化を実現するDHDによる操作化は、個人のキャリアを抽出する手段として有効であると言える。さらに、DHDによって類型化されたキャリアを変数化し、計量分析に応用することで、これまでの職業経歴が現在の意識にどのような影響を及ぼすのかを包括的に考察することが可能となった。